



《花器(プリムラ)》1900年頃 個人蔵



《花器(オダマキ)》1898-1900年 ヤマザキマザック美術館蔵



《猫型置物》1865-90年代 松江北堀美術館蔵



《蓋付瓶(ブドウ)》1900-02年頃 ポーラ美術館蔵



《花器(ニンフ、唐草)》1880-86年頃 個人蔵



《飾り棚(エリンギウム)》1896-98年頃 松江北堀美術館蔵

文化の森千客万来事業 徳島新聞創刊80周年記念事業



没後120年

# エミール・ガレ展

2024年10月12日[土]—12月15日[日]

徳島県立近代美術館

開館時間:9時30分—17時

休館日:毎週月曜日、10月15日[火]、11月5日[火] (10月14日、11月4日は開館)

# Emile Galle

自然を愛したガラス芸術の天才



《花器(バラ)》1901年頃 大一美術館蔵

主催:エミール・ガレ徳島展実行委員会/徳島県/徳島新聞社

後援:NHK徳島放送局/四国放送/エフエム徳島/(公財)徳島県文化振興財団

協力:ベル・デ・ベル 企画協力:アートプランニングレイ

19世紀末ヨーロッパに花開いた装飾様式「アール・ヌーヴォー」の巨匠エミール・ガレ(1846-1904)は、草花、昆虫など自然をモチーフにした美しい曲線と鮮やかな色彩が特徴のガラス作品を数多く制作し、ガラス工芸を芸術に高めた革命児でした。

文学、哲学、音楽、植物学、鉱物学などに通じ、歴史主義、ジャポニスム、象徴主義、世紀末ベル・エポックへいたる激動の時代と共に歩み、革新的な創造力を発揮したガレは、モダン・デザインの源泉に位置付けられる重要なアーティストといつてよいでしょう。

本展では、自然美の奥深い魅力と深い精神性を表現したアール・ヌーヴォー期の代表的ガラス作品、陶器、家具、ランプなど多彩な制作を、国内の個人コレクター所蔵の貴重な作品を中心に紹介し、その豊穡なガレ芸術の全体像を一望します。

園芸家としても知られ、自然美への憧憬と人間の魂の表現をガラス芸術に注ぐ一方、芸術とデザイン経営の狭間に激しく揺れ動いたガレの正直な生き方は、今日一層気になる存在です。自然との共生を模索し、人間社会の持続的な未来を願う現代の私たちに、大きな勇気とヒントを与えてくれることでしょう。自然豊かな文化の森の美術館で、ガレの美への情熱との出合いをたくさんの方に体験していただけることを願ってやみません。



**4 ガレ独壇場**  
何層も重ねたガラス地に古色を加えた幻想的な背景。彫刻の立体感にこだわり、植物の生命力を感じさせる演出は、まさにガレの真骨頂。



**3 身も心も装飾**  
花がそのまま器の形に。様々なガラス技術をこらした絵柄は、自然の風景を眺めるような重厚さです。



**2 生活にデザインを**  
陽をあびて咲く花と森の情景を象嵌細工で表現。自然をうたう詩も彫り込まれて。とにかく自然が好きだったんですね。



**1 大ヒットアイテム**  
かわいい陶器の置物。眼球はガラス。ロングセラー商品だったとか。



**8 故郷への思い**  
フランスのバラと呼ばれる逸品。普仏戦争の敗北により奪われた故郷ロレーヌへの思いを込めています。



**7 エレガント**  
フランス大統領からロシア皇帝に贈呈されたモデルだそうです。透明感のあるガラス地の色彩もブドウの彫刻も見惚れてしまいます。



**6 妖精と唐草**  
繊細なグラビユール彫刻。可憐で格調高い。



**5 電気時代のへ**  
リンドウの花の電気照明。寢室にあつたら素敵ですね。

# Emile Gallie

- 1.《猫型置物》1865-90年代 松江北堀美術館蔵 2.《飾り棚(エリンギウム)》1896-98年頃 松江北堀美術館蔵  
3.《花器(オダマキ)》1898-1900年 ヤマガキマザック美術館蔵 4.《花器(プリムラ)》1900年頃 個人蔵 5.《ランプ(リンドウ)》1902-04年頃 個人蔵  
6.《花器(ニフ、唐草)》1880-86年頃 個人蔵 7.《蓋付瓶(ブドウ)》1900-02年頃 ポーラ美術館蔵 8.《花器(バラ)》1901年頃 大一美術館蔵

## イベント

催しに手話通訳や要約筆記をご希望の方は、2週間前までにご相談ください。

## スペシャルトーク

10月12日[土] 14時-15時30分  
講師:鈴木潔(本展監修者・美術史家)  
展示会場 | 要観覧券

## ガレ入門ツアー

10月14日[月・祝]、10月20日[日]、  
11月4日[月・振替]、11月17日[日]  
14時から約30分  
進行:美術館スタッフ  
展示会場 | 要観覧券

## 子ども鑑賞クラブ「ガラスの森」

11月17日[日] 14時-14時45分  
進行:美術館スタッフ  
対象:小学生(保護者同伴可/観覧券をお求めください)  
展示会場 | 定員:30人程度  
電話で申込(先着順)当日参加も可 | 無料

## 観覧料

一般 1,200円[1,000円]  
高・大生 800円[640円]  
小・中生 600円[480円]

\*身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳等をご提示いただいた方とその介助者1名、未就学児は無料  
\*学校教育活動の団体は無料(申請が必要)

[ ]内は20名以上の団体料金。 前売り:一般 1,000円

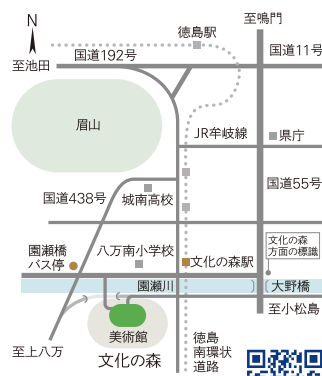
前売券は、徳島新聞社事業部、徳島新聞各販売店、平惣全店、フジグラン北島・阿南・石井各店、文化の森ミュージアムショップ、ローソン・ミニストップ店頭Loppi(Lコード:64079)、ローソンチケット<https://l-tike.com/>、セブンチケット(セブンコード:107-250) <https://7ticket.jp/s/107250>

## 会場のご案内

- JR徳島駅から  
徳島市営バス「文化の森」行き直通バスにて「文化の森」下車(約18分)。
- 徳島市営バス・徳島バスにて「園瀬橋」で下車(約16分)+徒歩(約10分)。
- JR牟岐線文化の森駅から徒歩[約35分]  
お車の場合、上八万、一宮方面からは南環状道路経由で「文化の森」にはお越しになれません。

## 徳島県立近代美術館

770-8070  
徳島市八万町向寺山 文化の森総合公園  
Phone:088-668-1088  
<https://art.bunmori.tokushima.jp/>



□最新情報はホームページ、X、Instagramでお知らせします

アイデア・無尽蔵。愛・無限大。